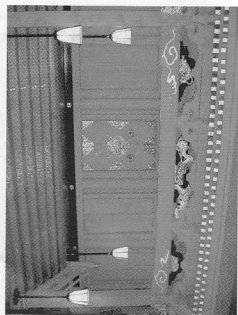
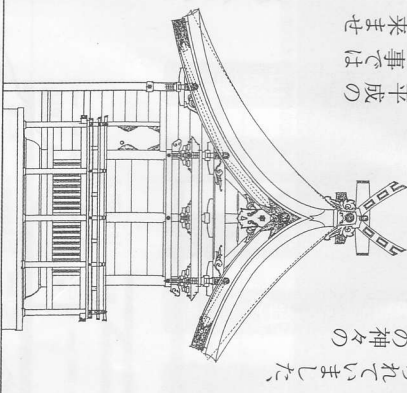


御本殿



戦国大名小田原北条家が造営した御本殿。五間社流造で造営当時は全体が朱色に塗られていました。相模国内の神社の本殿では大変大型で、相模の神々のための五つの御扉が特徴です。

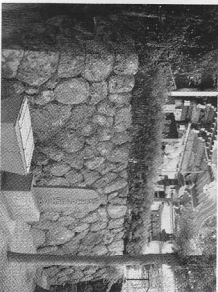
また、棟札は天文九年(五四〇)に鎌倉の鶴岡八幡宮造営の参考として持ち出されており、平成の六所神社御造営工事では発見することが出来ませんでした。



六所神社本殿側面図

北条家寄進の石垣

六所神社社殿を支える石垣は、戦国時代小田原の北条家により築かれ、関東大震災や大きな天災にも揺るぐことなく、なっております。この石垣は、当時の土木技術の高さを今に伝えると共に、北条家の篤い敬神精神を感じさせます。またこの石垣は野面積みと伝えられます。

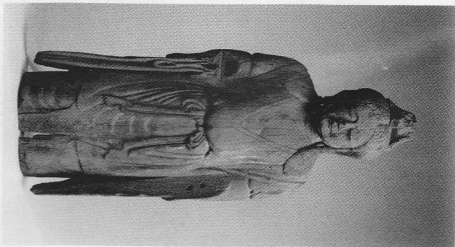


御神宝

「木造で、平安時代後期、相模国司の奉納と伝えられます。現在神奈川県内の御神像では最古の物のひとつであり、またこの河像は御祭神穂稻田姫命と素戔嗚命と推定され、ます。



男神立像



女神立像

御社地神柳山(かみそりいやま)相模国府祭の斎場のひとつ相模の神々が集う神域として、地域の人々からも大切に守られております。五月五日は座間答等の神事が斎行されます。また六社の神体石や塚などが現存し、悠久の歴史を今に伝えます。



「相中留恩記嶋」祭礼国府祭(江戸時代後期)



現在の相模国府祭

例大祭 柳魂祭(しまり) 九月十五日(九日を除く)

御祭神 穂稻田姫命を御神徳を称え奉る六所神社例大祭



例大祭柳魂祭

毎年、柳(し)にちなみ九月四日前後の日曜日に斎行され、午後には大祭式典、夕刻からは神楽殿で奉納演奏が行われます。また人形、櫓、並びに家に伝わる古い物等のお焚き上げ祭が行われ、たくさんの方が賑わいます。